

平成30年度第2回教育研究評議会議事録

日時 平成30年5月23日（水）14:30～17:00 TV会議
場所 事務局棟5階大会議室、S-P o r t 3階会議室
出席者 石井、丹沢、木村雅、東郷、堀川、寺村、伊東、本橋、鈴木、日詰、田島、菅野、江口、近藤、小西、塩尻、坂本、川田、木村元、河合、鳥山、平岡、恒川、原、朴、澤田の各評議員
欠席者 三村評議員
陪席者 村松監事、阿部、瓜谷、青木、木村、白井の各学長補佐、

I 前回議事録の承認について

平成30年度第1回教育研究評議会議事録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 大学間連携について

議長から、資料1及び席上配布資料により、大学改革における「国公私を通じた大学の連携・統合等」と「国立大学における大学の連携・統合等」について説明があった。

塩尻委員から、先日の1法人複数大学に関する新聞報道について質問があり、議長から、本学執行部から公表したものではなく、このような公表は適切ではない旨、回答があった。

小西委員から、連携によって大学のブランド力に影響を及ぼす可能性があるので受験産業等を活用して受験生や保護者等への対応に関するコンサルティングを受けてほしい旨、意見があった。

田島委員から、静岡キャンパスのコンセプトを「食品、文化、サービス等」としている原案について質問があり、議長から、学外への資料を作成するときどのようなコンセプトにしたらいいのか学部からも意見を出してほしい旨、依頼があった。

川田委員から、デメリットの記載の中に、創造科学技術大学院、総合科学技術研究科、研究所等、静岡キャンパスと浜松キャンパスをまたぐ組織の在り方について、中途半端はよくないと考えている旨、意見があった。

田島委員から、浜松医科大学の財政状況について質問があり、議長から、公表されている財務諸表上は特段の問題はないと考えている旨、回答があった。

河合委員から、農学部で意見交換をした際、浜松医科大学との連携については反対意見が多かった旨、アンブレラ方式にするならば他大学とは考えないのか、浜松キャンパスを分離するメリットがない、という意見があった旨、紹介があった。

日詰委員から、人文社会科学部教授会で議論した結果、大きく2つの懸念が出された。1つは、今回のような1法人複数大学の形態は、現在民間企業等で進められている経営再編（ホールディング化）と同様であるが、このような形態がすべてうまくいっているわけではない。ホールディング化という経営統合方式を採用することにより、むしろ管理部門の肥大化や業務の複雑化に繋がるケースも多い。したがって、慎重な議論が必要だと考えられる。2つ目は、浜松医科大学との法人統合により、財源や人事等の意思決定におけるバランスが崩れ、浜松主導型になりはしないか、という2つ懸念が出ている旨、紹介があった。

菅野委員から、教育学部教授会で説明し判断材料不足や懸念も出されたが学長の説明会を聞こうという流れになったことの報告と、学長は3年後の法人統合2大学化と5年後の公・私立大学を含めた連携とを切り離して議論の範囲を前者に限定、統合後の展望は措いてまずは連携協議会の設置可否の検討に限定という2重の限定を加えつつあるようだが、5年後以降の将来展望抜きには本質的な議論がしがたく、かつ連携協議会を設置した後は慣性も働き、両大学間の議論が中心となって学内議論が制約を受けかねないため、限定を外した議論が必要であるとの意見があった。議長から、連携協議会を設置した後であっても、協議の結果として現状のままということはある得るとの説明があった。

朴委員から、グリーン科学技術研究所の議論では、18歳人口の減少によって大学のダウンサイジングが避けられないのではないか、結果として財政状況も悪化する可能性は否定できないので、本学の財政構造や地域の産業構造の定量的な分析に基づいた説明がないままでは、浜松医科大学との連携については反対意見だった旨、紹介があった。

塩尻委員から、示されているメリット、デメリットはよく理解できないこと、また1法人2大学ありきで議論を始めるのは限定しすぎるのではないか等の意見があった。

近藤委員から、新大学になることよって教養教育をどうするか、大学教育センターをどうするか検討しなければならない旨、意見があった。

今後、各キャンパスで学長と教員との意見交換会を開催し、引き続き本会議等で議論することとした。

2 平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

伊東委員から、平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書について、資料5により説明があり、持ち帰り審議とし、次回、本会議で審議・承認することとした。

同委員から、意見、修正等があれば提出するように依頼があった。

3 華中科技大学(中華人民共和国)との大学間交流協定の更新について

議長から、華中科技大学(中華人民共和国)との大学間交流協定の更新について、資料3により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

4 アジアブリッジプログラム(学士)対象国の拡大について

議長から、アジアブリッジプログラム(学士)対象国にミャンマーを追加することについて、資料4により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

Ⅲ 報告事項

1 平成30年度第2回企画戦略会議(平成30年5月9日)報告

議長から、平成30年度第2回企画戦略会議(平成30年5月9日)について、資料5により報告があった。

2 平成30年度第1回国立大学協会東海・北陸地区支部会議(平成30年5月16日)報告

議長から、平成30年度第1回国立大学協会東海・北陸地区支部会議(平成30年5月16日)について、資料6により報告があった。

3 平成29年度静岡大学IR室年度報告について

東郷委員、阿部、瓜谷、青木及び木村の各学長補佐から、平成29年度静岡大学IR室年度報告について、資料7により報告があった。

4 年次有給休暇の計画的取得に関する協定について

堀川委員から、平成31年1月4日（金）を年次有給休暇とする協定について、資料8により報告があった。

5 ハラスメントに関する学外相談窓口について

堀川委員から、平成30年6月1日（金）に設置するハラスメントに関する学外相談窓口について、資料9により報告があった。

6 静岡大学「学内ワークスタディ」実施要項及び静岡大学「学内ワークスタディ」実施細則の一部改正について

寺村委員から、未来創成基金を活用した「全学生対象学内ワークスタディ」を実施することに伴い、静岡大学「学内ワークスタディ」実施要項及び静岡大学「学内ワークスタディ」実施細則の一部改正について、資料10により報告があった。

7 未来創成基金を活用した国際交流関係奨学金について

鈴木委員から、未来創成基金を活用した国際交流関係奨学金について、資料11により報告があった。

IV その他

1 平成30年度静岡大学秋季学位記授与式及び入学式について

議長から、平成30年9月14日（金）に挙げる平成30年度静岡大学秋季学位記授与式及び平成30年10月4日（木）に挙げる平成30年度静岡大学秋季入学式について、資料12により案内があった。

2 平成29年度静岡大学地域創造学環フィールドワーク報告会について

平岡委員から、平成30年5月31日（木）に開催する平成29年度静岡大学地域創造学環フィールドワーク報告会について、資料13によりお知らせがあり出席依頼があった。

以上